

# 福島第一原子力発電所の状況

2015年11月11日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (11/11 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h	23.1	0.4 kPa g	A系： 0.00 vol %
		炉心スプレイ系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h	28.4	4.22 kPa g	A系： 0.07 vol %
		炉心スプレイ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.06 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	27.2	0.27 kPa g	A系： - vol %
		炉心スプレイ系：約 2.3 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 vol %

作業に伴いデータ欠測

## < 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (11/11 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	21.0
2号機	循環冷却システム	運転中	23.0
3号機	循環冷却システム	運転中	18.5
4号機	循環冷却システム	運転中	16.6

各号機 SFP および原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

## < 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (11/11 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 \*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## < 4. その他 >

・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。

2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18 箇所)を対象に試験凍結を開始。

・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。

・2015/11/5 0:09 2号機タービン建屋に設置されている滞留水移送設備の漏えい検知器が作動。このため、0:11 に2号機タービン建屋から高温焼却炉建屋への滞留水の移送を停止、0:12 に3号機タービン建屋から高温焼却炉建屋への滞留水の移送を停止。

当社社員が現場確認した結果、滞留水移送配管の下部に設置してある約2m×5m×5cmの堰内に高さ約2cmの水たまり、堰外に約5m×5m×1mmの水たまりを確認。

また、当該配管は塩化ビニール製シート<sup>1</sup>で覆われており、そこから数秒に1滴程度、堰内に滴下していたが、配管を覆っている塩化ビニール製シートには、水が残っているものの、2:30 現在、水の滴下は停止している。

確認された水たまりは、2号機タービン建屋内に留まっており、環境への影響はないと考えている。水溜まりが確認された箇所の現場調査を実施し、水溜まり箇所の上部には、4本の滞留水移送配管が敷設されていた。そのうち3本の配管に巻きつけていた塩化ビニール製シート内に水が溜まっていることを確認。水溜まりのあった床面および塩化ビニール製シート3箇所の水のサンプリング結果は以下の通り。

	セシウム 134	セシウム 137	全ベータ (単位:Bq/L)
床面	$2.5 \times 10^6$	$1.1 \times 10^7$	$3.2 \times 10^7$
配管 A	$4.2 \times 10^6$	$1.8 \times 10^7$	$5.5 \times 10^7$
配管 B	$2.2 \times 10^6$	$9.5 \times 10^6$	$5.1 \times 10^7$
配管 C	$3.2 \times 10^6$	$1.4 \times 10^7$	$4.0 \times 10^7$

水溜まりが確認された箇所の上部に敷設された4本の滞留水移送配管について、ろ過水による漏えい試験を実施したところ、そのうちの1本の配管(以下、「当該配管」という。)から水の漏えいを確認。

当該配管については、11月6日にお知らせした、塩化ビニール製シート内に水が溜まっていた3本の滞留水移送配管とは別の配管であった。

また、当該配管について、漏えい箇所近傍にある配管貫通部のシールプレートやコーキング材を剥がして目視確認したところ、配管に親指程度のへこみがあること、へこみの表面に亀裂があることを確認。

当該配管については、今後準備ができ次第、配管の交換を行うとともに亀裂が発生した原因を調査する。

なお、当該配管以外の3本からは漏えいは確認されておらず、滞留水移送配管の塩化ビニール製シート内に水が溜まっていた原因としては、当該配管から漏れた水が配管表面を伝い、当該配管の下側に敷設<sup>2</sup>されている3本の滞留水移送配管に巻き付けてある塩化ビニール製シート内に入り込んだものと推定。

漏えいの発生に伴い各建屋滞留水の移送を停止しているが、当該配管を隔離して、建屋滞留水の移送を実施できることが確認できたため、11月11日16:02より各建屋の滞留水移送を再開。

#### 1 塩化ビニール製シート

配管からの漏えいを速やかに検知するため、漏えいした水を漏えい検知器に導く目的で、あらかじめ設置したもの。当該シートは4本の配管全てに設置している。

2 4本の滞留水移送配管については、漏えい箇所近傍の配管貫通部では水平に並んで敷設されているが、その後各配管が立ち下がり、上下方向に並んで敷設されており、当該配管はこの最上段に敷設された状態。

### [1号機原子炉建屋カバー解体作業]

・2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。

5/15 6:45 ~ 5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動なし。

7/17 7:06 ~ 7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。

7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5 に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

### [サブドレン他水処理施設の状況]

・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。

9/17 ~ サブドレン他水処理施設による地下水のくみ上げについて、昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え実施。

・一時貯水タンクAの当社および第三者機関による分析結果[採取日10/31]は同等の値であり、運用目標値を満足していることを確認したことから、11/12に海洋へ排水予定。

### [地下水バイパス揚水井の状況]

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

・地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日10月29日]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることから、11/11 9:55より海洋への排水を開始。同日10:00、漏えい等の異常がないことを確認。

### [1 ~ 3号機放水路の状況]

1 ~ 3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

### [構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて]

< K排水路排水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】**

**< H4エリア周辺のサンプリング実績 >**

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**< H6エリア周辺のサンプリング実績 >**

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >**

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】**

**< 地下水観測孔・海水サンプリング実績 >**

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

**< 地下貯水槽サンプリング実績 >**

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上